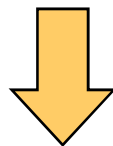


環境影響評価準備書のあらまし

【環境影響評価とは】

<目 的>

環境に影響を及ぼすおそれのある事業の実施にあたり、
環境の保全について適正な配慮がなされること



<実施事項>

事業実施前	環境に関する調査、予測、評価、環境保全措置の検討を実施
事業実施後	事後調査を実施

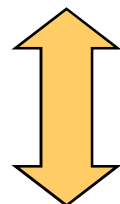


住民の参加、知事や市町村長の関与等の手続や調査・予測・評価の方法などが大阪府環境影響評価条例で規定

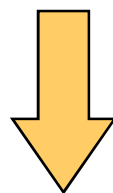
【環境影響評価の対象事業】

＜大阪府環境影響評価条例＞

長さ3km以上の鉄道事業を環境影響評価の対象事業と規定



＜本事業の延長＞ 5.5km

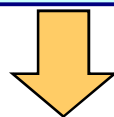


大阪府環境影響評価条例に該当

【環境影響評価の手続きの流れ】

環境影響評価方法書の作成

H21.10 提出



環境影響評価の実施
環境影響評価準備書の作成

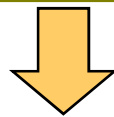
H24.2 提出



説明会の開催（本日）

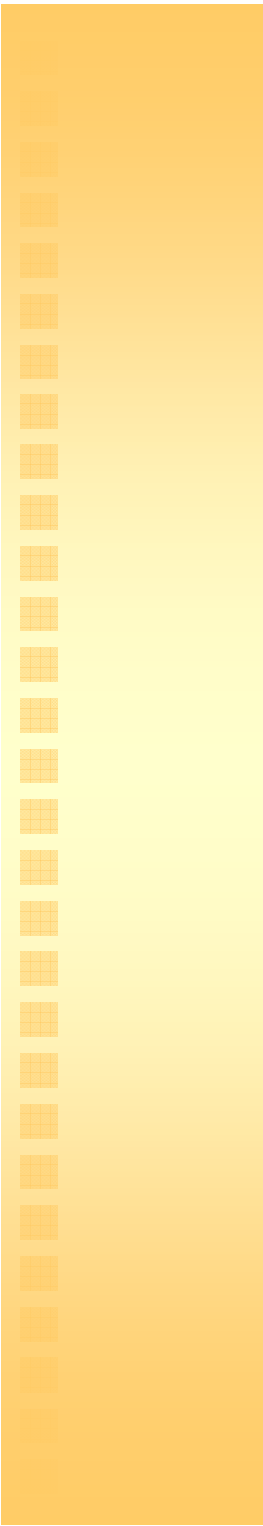


環境影響評価書の作成



都市計画決定

H25年春頃予定



調査・予測・評価の結果

【環境影響要因及び環境影響評価項目】

本事業実施に伴う環境影響要因

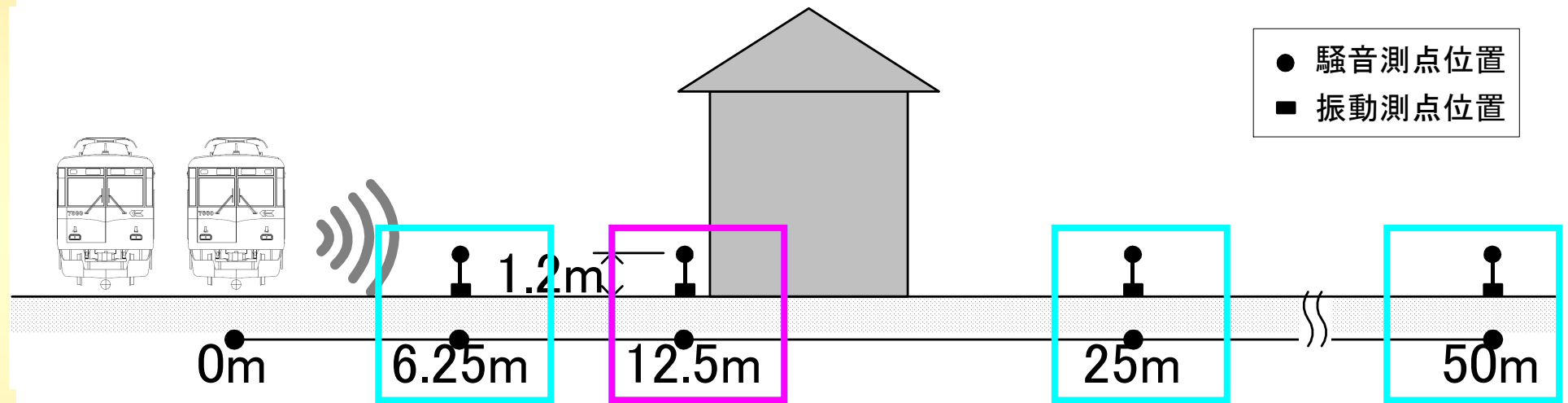
施設の存在	高架構造物等の存在
施設の供用	列車の走行(将来線)、駅施設の供用
工事の実施	建設機械の稼動、工事関連車両の走行、列車の走行(仮線)、土地の改変

環境影響評価の項目

環境項目 環境影響要因	大気質	騒音	振動	低周波音	土壌汚染	日照阻害	電波障害	人との活動の場 人と自然との触れ	景観	文化財	廃棄物、発生土	地球環境
施設の存在						○	○		○			
施設の供用		○	○	○								○
工事の実施	○	○	○		○			○		○	○	○

 : 現地調査を実施

【鉄軌道騒音・振動の測点配置】



【大気質】

＜建設機械の稼動＞

表 1 (1) 建設機械の稼動に伴う大気質濃度の予測・評価結果（長期的評価）

項 目	単位	環境濃度	工事中の予測結果		環境保全目標値 （年間 98%値等と対比）	評価
			年平均濃度	年間 98%値等		
二酸化窒素	ppm	0.020	0.020	0.040	1 時 間 値 の 1 日 平 均 値 が 0.04ppm から 0.06ppm までのゾーン内又はそれ以下であること。	○
浮遊粒子状物質	mg/m ³	0.024～0.026	0.024～0.026	0.059～0.064	1 時 間 値 の 1 日 平 均 値 が 0.10 mg/m ³ 以下であること。	○
二酸化硫黄	ppm	0.004～0.005	0.004～0.005	0.009～0.011	1 時 間 値 の 1 日 平 均 値 が 0.04ppm 以下であること。	○

＜大阪府下の濃度＞

二酸化窒素	0.015～0.055
浮遊粒子状物質	0.033～0.071
二酸化硫黄	0.002～0.022

中間から少し高い濃度に位置

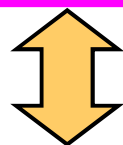
全ての項目で環境保全目標値を満足

【大気質】

＜建設機械の稼動＞

表 1 (2) 建設機械の稼動に伴う大気質濃度の予測・評価結果（短期的評価）

項 目	単位	環境濃度	工事中の予測結果	環境保全目標値 （1 時間濃度と対比）	評価
			1 時間濃度		
二酸化窒素	ppm	0.072～0.073	0.091～0.099	0.1～0.2ppm 以下であること。	○
浮遊粒子状物質	mg/m ³	0.092～0.107	0.106～0.111	1 時間値が 0.20 mg/m ³ 以下であること。	○
二酸化硫黄	ppm	0.013～0.015	0.013～0.016	1 時間値が 0.1ppm 以下であること。	○



＜大阪府下の濃度＞

二酸化窒素	0.048～0.126
浮遊粒子状物質	0.145～0.757
二酸化硫黄	0.011～0.077

中間から少し高い濃度に位置

低い方の濃度に位置

全ての項目で環境保全目標値を満足

【大気質】

＜工事関連車両の走行＞

表2 工事関連車両の走行に伴う大気質濃度の予測・評価結果

項 目	単位	環境濃度	工事中の予測結果		環境保全目標値 (年間 98%値等と対比)	評価
			年平均濃度	年間 98%値等		
二酸化窒素	ppm	0.020	0.020～0.023	0.040～0.043	1 時 間 値 の 1 日 平 均 値 が 0.04ppm から 0.06ppm までのゾー ン内又はそれ以下であること。	○
浮遊粒子状物質	mg/m ³	0.024～0.026	0.024～0.027	0.059～0.065	1 時 間 値 の 1 日 平 均 値 が 0.10 mg/m ³ 以下であること。	○
二酸化硫黄	ppm	0.004～0.005	0.004～0.005	0.009～0.011	1 時 間 値 の 1 日 平 均 値 が 0.04ppm 以下であること。	○

＜大阪府下の濃度＞

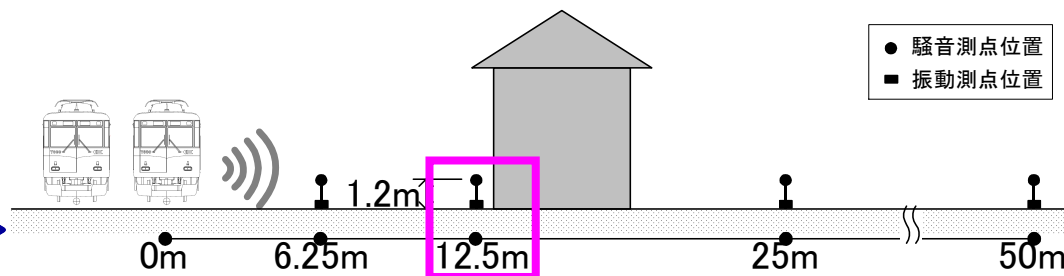
二酸化窒素	0.030～0.063
浮遊粒子状物質	0.041～0.075
二酸化硫黄	0.004～0.011

中間から少し高い濃度に位置

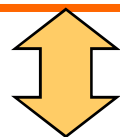
全ての項目で環境保全目標値を満足

【騒音】

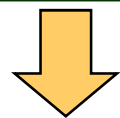
<列車の走行（将来線）>



現況 (等価騒音レベル)	昼間 61～74デシベル 夜間 56～70デシベル
将来 (等価騒音レベル)	昼間 54～70デシベル 夜間 50～66デシベル



環境保全目標値	騒音レベルの状況を改良前より改善すること
---------	----------------------



現況と軌道位置が同じ1地点を除いて全ての地点で環境保全目標値を満足

【騒音】

＜建設機械の稼動＞

工事敷地境界に3m高さの万能塀等を設置した場合

騒音レベルの90%レンジ上端値 $\leq$ 85デシベル
(環境保全目標値)



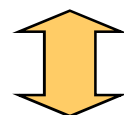
万能塀

【騒音】

＜工事関連車両の走行＞

現況(等価騒音レベル)	昼間 55～70デシベル
-------------	--------------

工事中(等価騒音レベル)	昼間 55～70デシベル
--------------	--------------

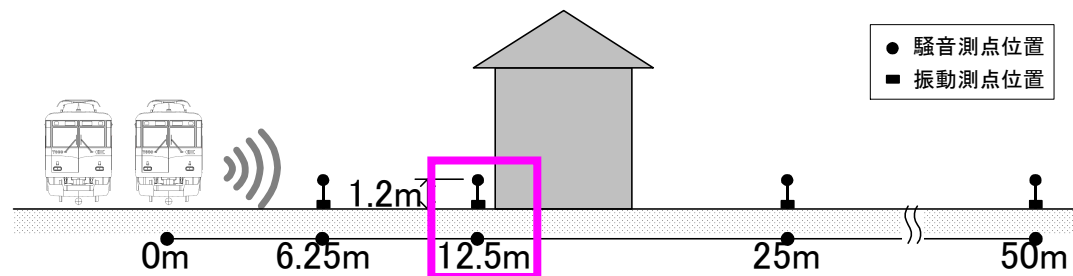


環境保全目標値	昼間 65もしくは70デシベル
---------	-----------------

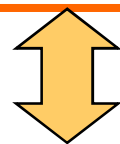
全ての地点で環境保全目標値を満足

【騒音】

<列車の走行（仮線）>



現況 (等価騒音レベル)	昼間	61～70デシベル
	夜間	56～67デシベル
仮線 (等価騒音レベル)	昼間	51～60デシベル
	夜間	47～56デシベル



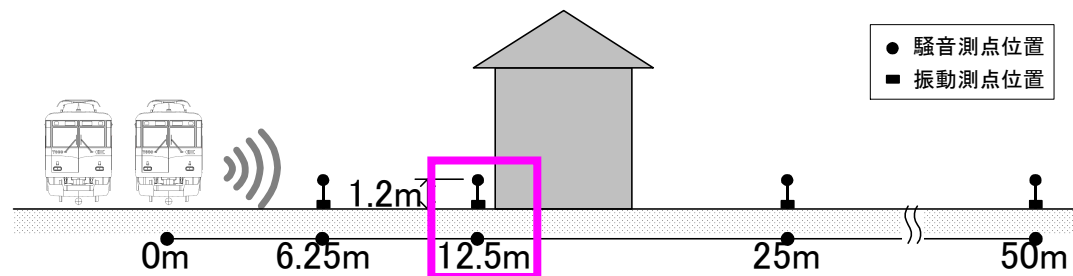
環境保全目標値	騒音レベルの状況を改良前より改善すること
---------	----------------------



現況と軌道構造が同じ1地点を除いて全ての地点で環境保全目標値を満足

【振 動】

＜列車の走行（将来線）＞



現 況
(ピーク値)

50～61デシベル

将 来
(ピーク値)

42～56デシベル

環境保全目標値

60デシベル以下

全ての地点で環境保全目標値を満足

【振 動】

<建設機械の稼動>

振動レベルの80%レンジ上端値 $\leq$ 75デシベル
(環境保全目標値)

<工事関連車両の走行>

現 況 (80%レンジ上端値)	昼間 32～42デシベル
--------------------	--------------

工事中 (80%レンジ上端値)	昼間 32～42デシベル
--------------------	--------------

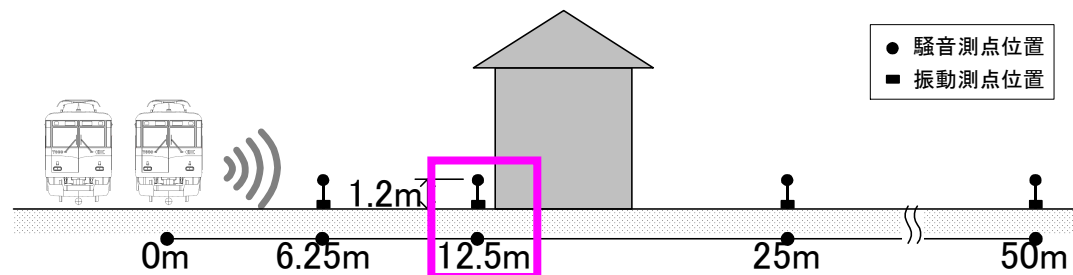


環境保全目標値	昼間 65もしくは70デシベル
---------	-----------------

全ての地点で環境保全目標値を満足

【振 動】

<列車の走行（仮線）>



現 況
(ピーク値)

50～60デシベル

仮 線
(ピーク値)

49～61デシベル

環境保全目標値

60デシベル以下

路盤の強化やバラストマット
の設置等により振動を低減

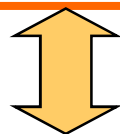
全ての地点で環境保全目標値を満足

【低周波音】

＜列車の走行＞

現 況 (ピーク値)	平坦特性 82～95デシベル G 特 性 79～84デシベル
---------------	-----------------------------------

将 来 (ピーク値)	平坦特性 86～93デシベル G 特 性 87～88デシベル
---------------	-----------------------------------



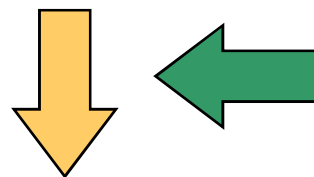
環境保全目標	平坦特性 90デシベル以下 G 特 性 100デシベル以下 もしくは現況以下
--------	--



全ての地点で環境保全目標値を満足

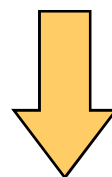
【土壌汚染】

土地の改変時



土壌汚染対策法及び
大阪府条例

土壌汚染調査



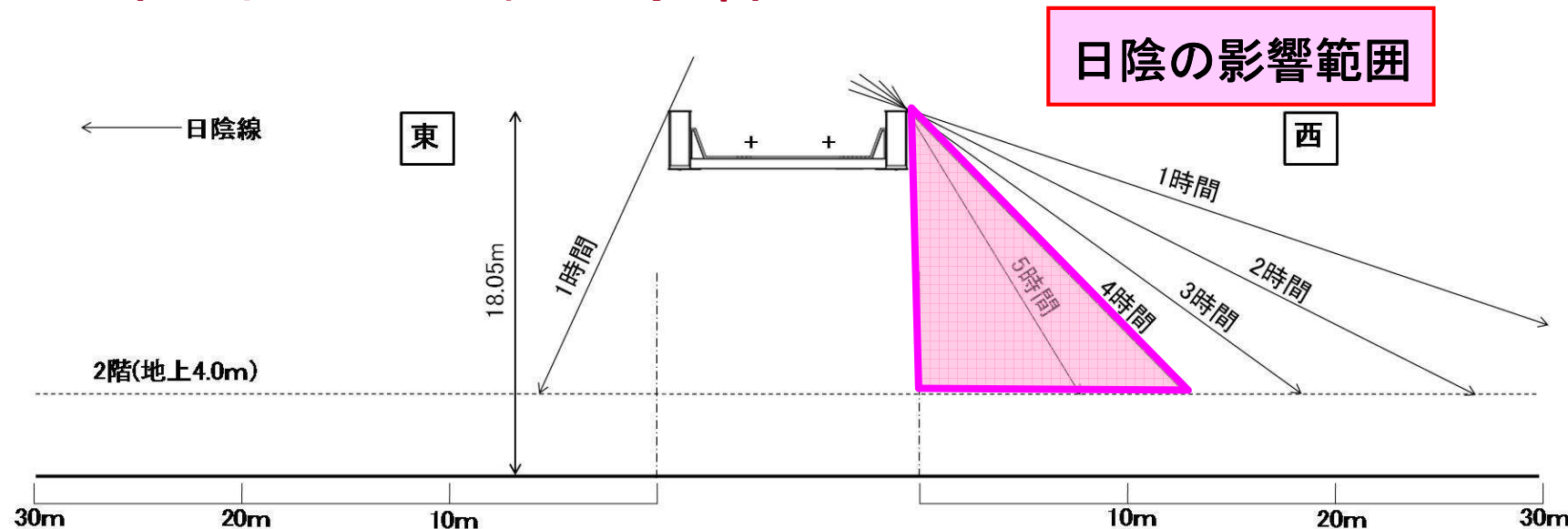
土壌汚染が確認された場合

法律及び条例に基づき適切に処理します。

【日照障害】

高架構造物が高い区間等

一部の住宅に日陰の影響が生じると予測



環境保全目標

2階高さにおいて、冬至日の8～16時に4時間または5時間以上日陰とならないこと



「公共施設の設置に起因する日陰により生ずる損害等に係る費用負担について」(昭和51年2月23日、建設省計用発第4号)に基づき、適切に対応します。

【電波障害】

＜現地調査結果＞

調査対象局：大阪局(7局)・京都局(2局)・枚方局(1局)

一部地域の一部のチャンネル

テレビジョン電波の受信障害の発生していることを確認

＜予測結果＞

一部地域でテレビジョン電波の受信障害の発生と予測



CATVへの接続などにより、視聴を確保します。

【人と自然との触れ合いの活動の場】

走谷公園、南中振公園、香里北さざんか公園

⇒ 快適性に変化が生じると予測

田井西公園

⇒ 利用性、快適性に変化が生じると予測



今後、全ての公園において面積の減少や機能の回復、利用者の快適性の確保について、公園管理者と協議し対策を講じます。

【景 観】

＜現 況＞



＜供用後＞



田井西公園（ゲートボール場から事業計画路線方向の景観）

大阪府景観計画等の基準を遵守し、周辺環境と調和した景観形成を図ります。

【景 観】

＜現 況＞



＜供用後＞



寝屋川市寿町（旧国道170号跨線橋付近の眺望）

大阪府景観計画等の基準を遵守し、周辺環境と調和した景観形成を図ります。

【景 観】

＜現 況＞



＜供用後＞



香里園駅付近（駅ロータリーから駅舎方向の眺望）

駅舎等の設計に際しては、地域景観との調和などに配慮しながら景観向上に努めます。

【景 観】

＜現 況＞



＜供用後＞



南中振公園付近（公園入口から北方向の眺望）

大阪府景観計画等の基準を遵守し、周辺環境と調和した景観形成を図ります。

【景 観】

＜現 況＞



＜供用後＞



光善寺駅付近（駅舎方向の眺望）

駅舎等の設計に際しては、地域景観との調和などに配慮しながら景観向上に努めます。

【景 観】

＜現 況＞



＜供用後＞



八尾枚方線沿道（枚方市走谷一丁目：歩道からの眺望）

大阪府景観計画等の基準を遵守し、周辺環境と調和した景観形成を図ります。

【景 観】

＜現 況＞



＜供用後＞



枚方公園駅付近（駅舎方向の眺望）

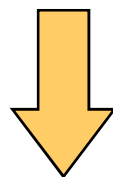
駅舎等の設計に際しては、地域景観との調和などに配慮しながら景観向上に努めます。

【文化財】

大阪府教育委員会等の関係機関と協議



工事実施前に文化財調査



文化財が確認された場合

記録保存等の処置による文化財保護

【廃棄物、発生土】

＜廃棄物・発生土量＞

杭工事	約 21,000トン
現在線・仮線撤去	バラスト 約19,300m ³ 枕木・レール 約 8,400トン
駅舎撤去	約 4,200トン
工事事務所	約 1,400トン
発生土	約155,700m ³



発生量及び処分量の削減と資源循環の推進に向けて十分配慮

【地球環境】

＜施設の供用＞

エレベーター及びエスカレーターの電力消費に伴う二酸化炭素排出量

年間：約100t-CO₂/年と予測



インバータ制御方式のエレベーター・エスカレーターを採用
省エネルギー型の機器等の採用等

【地球環境】

＜工事の実施＞

建設機械の稼動に伴う二酸化炭素排出量

工事期間合計 : 約8,100t-CO₂と予測

工事関連車両の走行に伴う二酸化炭素排出量

工事期間合計 : 約15,220t-CO₂と予測



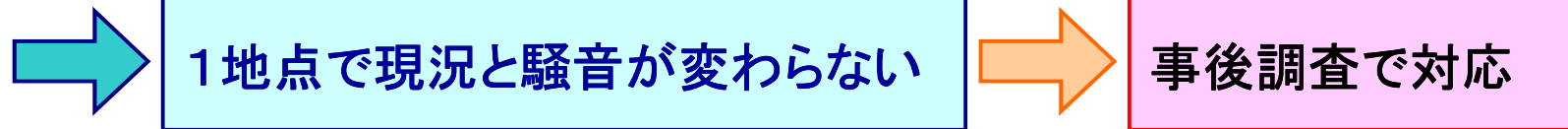
大阪府内の二酸化炭素排出量
51,940,000t-CO₂(2008年度)

環境対策型建設機械の使用等

【調査、予測、評価結果のまとめ】

＜特に影響があると考えられた事項＞

① 列車の走行に伴う騒音（将来線及び仮線）



② 列車の走行に伴う振動（仮線）

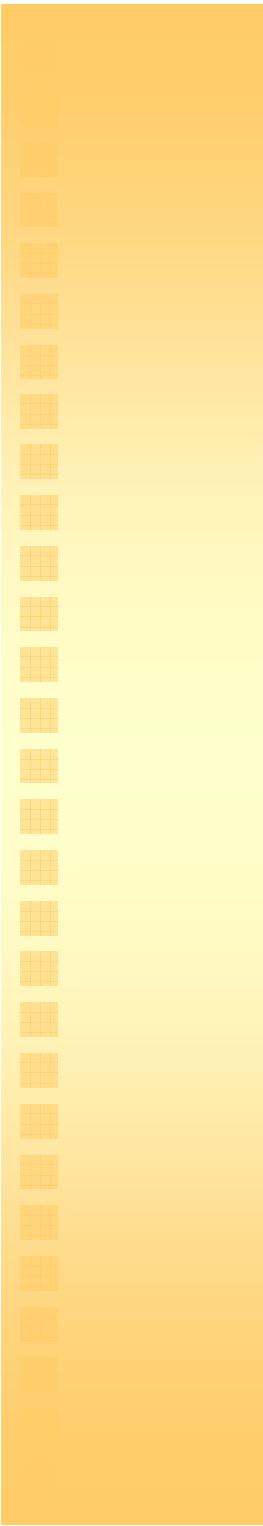


③ 日照障害



④ 電波障害

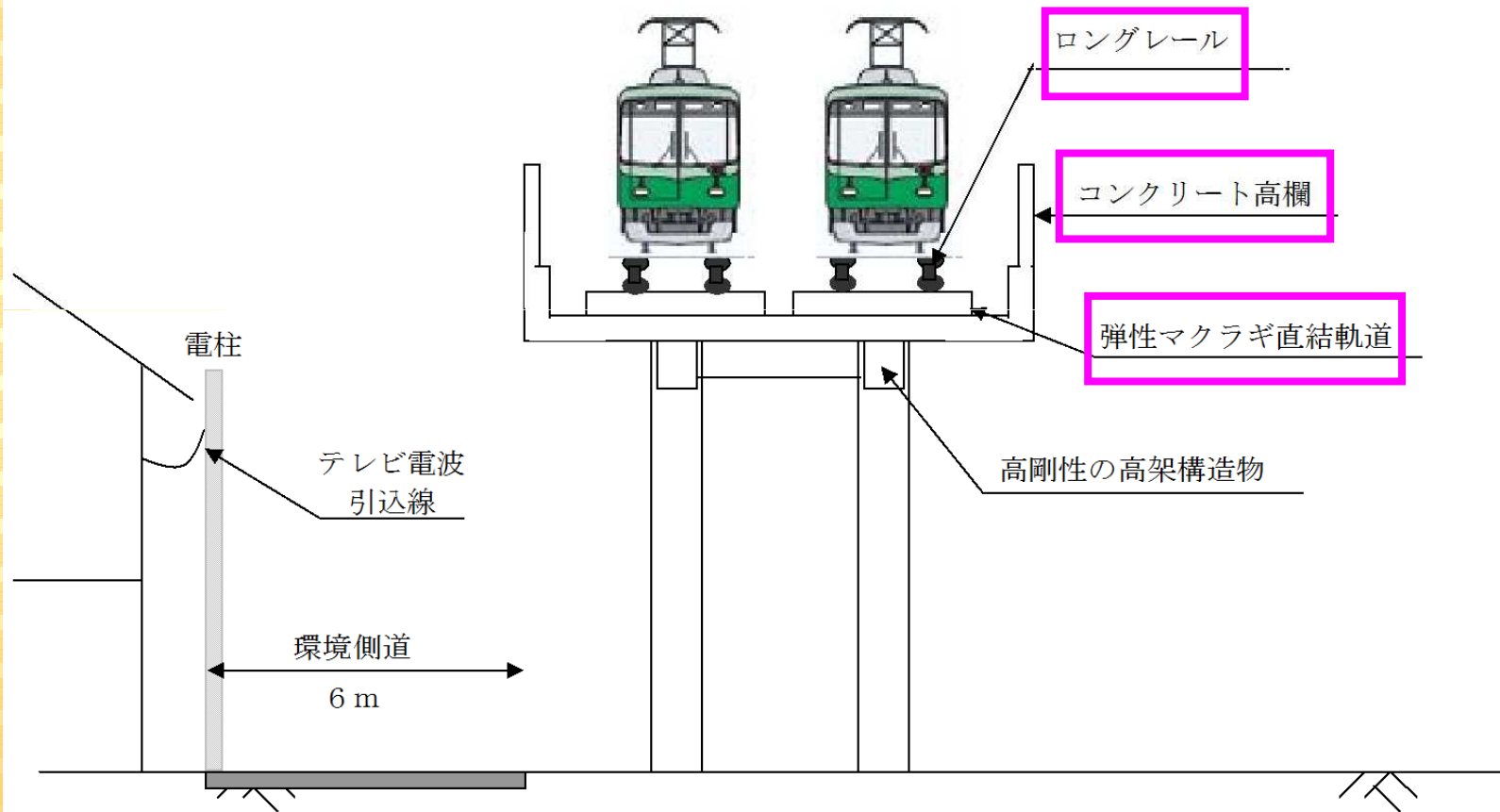




主な環境保全措置の内容

【主な環境保全措置の内容】

施設の存在・供用



透明タイプのゴミ箱



リサイクルされる使用済み車輪



再生トイレットペーパー

【主な環境保全措置の内容】

建設工事中

散水や工事用通路の舗装
による粉じんの飛散防止

万能塀等による騒音の低減



低騒音型等の環境対策型の建設機械を使用